

令和 7 年度大牟田市文化芸術振興審議会第 1 回会議 摘録

日時	令和 7 年 5 月 27 日（火） 14：00～15：30
場所	大牟田市役所北別館 4 階 第 4 委員会室
次第	（委嘱状の交付） 1 審議会委員の交代について（資料 1） 2 審議会について（資料 2） （議題） 1.第 3 期文化芸術振興プランに掲げる事業の令和 6 年度の取り組み状況について（資料 3） 2.令和 7 年度の主な取り組みについて（資料 4） 3.その他
出席者	（審議会員） 日下部委員、甲斐田委員、野中委員、三宅委員、梶原委員、砥上委員、橋本委員、大向委員、諸田委員 （事務局） 大倉野市民協働部長、徳川生涯学習課長、龍生涯学習課主査、岩下生涯学習課担当
欠席者	（審議会員） 深浦委員

（審議会委員の交代について）

令和 7 年 4 月 1 日より新たに委員となった大向委員、諸田委員に委嘱状を交付。

（審議会について）

大牟田市文化芸術振興審議会の概要について事務局より説明。

（議題）

1 第 3 期文化芸術振興プランに掲げる事業の令和 6 年度の取り組み状況について資料 3

（事務局）資料 3 に沿って説明

（委員）

N0.11 の日本フィルハーモニー交響楽団による子ども達への楽器指導が未実施のため D 評価となっているが、令和 7 年度は実施予定なのか。

（事務局）

令和 7 年度も昨年同様、予算確保と楽団側との調整ができなかったことにより実施は難しい状況。令和 8 年度以降、改めて予算確保等を行っていききたい。

（委員）

若い世代や障害のある方が参画できる取組みが少しずつ増えてきていると感じる。特に、高校生ボランティア等で若い方に関わっていただけるのはとても良い。

（事務局）

高校生が積極的に関わっていける機会をこれからも創出していきたい。

これまでは、受付や客席の案内など、補助的スタッフとしてイベントを支援してもらった形が多かったが、昨年度から高校生自らが文化芸術に直接触れるような形でのボランティアも行っている。例えば、学童保育所において押し花ワークショップを行う際は、高校生が子ども達に教えることができるよう事前に押し花団体が高校生にレクチャーする時間を設けた。単に労力としてボランティアに入ってもらうのではなく、文化芸術に直接触れる機会を創出していく取組みを今後も行っていきたい。

（委員）

自分は、地区公民館で絵手紙の活動をしており毎年10月の文化祭にも参加しているが、若い人が中々参加してくれない状況。若い人や高校生がボランティアとして参加し、シニア世代との交流ができるような機会があったら良いと感じている。

（委員）

N0.46のアートマネージャーやコーディネーターの養成及び支援がC評価となっているが、以下3点についてお尋ねしたい。

- ①養成について研修カリキュラム等はあるのか。
- ②この事業はどこを目指して実施しているのか。
- ③アートマネージャーやコーディネーターが今後どういう場で活躍していく想定なのか。

（事務局）

- ①過去に、文化芸術団体等を対象にした研修会を実施したことはあるが、カリキュラム等があるわけではなく、昨年度は講座形式では実施していない。
- ②、③昨年度、アート×まちづくり体感型シンポジウムの事業の中で学識経験者の方から、コーディネーターとは、文化芸術と様々な分野を繋げる役割であり、その役割を担う人材が必要であるとお話をいただいた。より実践的に文化芸術と他分野を繋げる人材を育成することを大きな目標としていけるとともに、実践できる場面を作っていきたい。研修会もそのための1つのツールとしては有効であると思っているが、それだけではなく、様々な取り組みをやっていく必要があると考えている。

（委員）

N0.58の文化芸術団体の活動内容の市民周知がC評価となっている。SNSや広報誌など様々な形で情報発信されていると思うが、未だに「イベント等を知らなかった」と

言われる方が多い。大牟田音楽家協会でも、独自の LINE グループやフェイスブック等でイベント等の発信は行っているが、何が一番伝わるのか悩ましい。

情報発信についての現在の状況と、今後の取り組み方についてお聞きしたい。

（事務局）

現在、広報おおむたや SNS、公共施設でのチラシ配架など様々なツールを活用して情報発信を行っている。そういったツールを最大限に活用するとともに、イベントのターゲットごとに情報の届け方を工夫したり提供先を増やす等の取り組みが必要と感じている。

第3期の文化芸術振興プランを策定する際の市民アンケートにおいて、「情報が十分届いていない」という声を多くいただいたことから、情報発信については1つの課題として認識している。そこで、昨年度から、文化芸術情報の分かりやすい発信を目的に、2か月に一度、今後の文化芸術情報をホームページに時系列順にまとめた形で掲載し、ホームページの更新に合わせ、市公式 LINE 等から案内しながら多くの方に見てもらえるようにした。

また、子ども達向けの事業については、教育委員会と連携し、小・中学校の専用掲示板（Mボード）に直接情報を掲載していただくよう働きかけを行うようにした。日本フィルハーモニー交響楽団の大牟田公演では、Mボードでの案内により無料シートの申込増加に繋がったものと考えている。今後も関係機関や団体と連携し、情報発信の仕組み強化を進めていく。

（委員）

FM たんとで文化芸術を紹介するコーナー等を設けて、各団体の取り組みや情報発信を行うことはできないだろうか。

（事務局）

FM たんとでは、大牟田市の取り組みなどを紹介するコーナーがあり、市の各部署がそれぞれ随時 PR のために出演している。現在、防災に関してのコーナーは存在しているが、文化芸術に特化したものは無い。より多くの方に認知をしてもらうためにも、文化芸術の情報を紹介するコーナーを設けることが可能性か検討していきたい。

2 令和7年度の主な取り組みについて 資料 4

（事務局） 資料 4 に沿って説明

（委員）

今年度実施予定の、基本目標 3(2)の大牟田市文化振興財団による自主文化事業 23 事業や、基本目標 4(1)の大牟田市民文化のつどい事業の 18 事業は、具体的にどんな内容か。

（事務局）

大牟田市民文化のつどい事業については、例年どおり、大牟田文化会連合会が中心となり、茶道、美術、ダンス、バレエ、押し花、日本舞踊等の多岐にわたる分野で、発表会や展示会を主に大牟田文化会館で実施予定。

大牟田市文化振興財団による自主文化事業は、鑑賞事業、参加型事業、育成事業の大きく3分野に分け、財団独自で実施する事業や大牟田音楽家協会や生涯学習課等と連携した実行委員会形式の事業を実施予定。

ピアノやバイオリンの体験事業やプレ40周年事業の声優等を招聘しての朗読イベント、また、昨年度リニューアルされたプラネタリウムについても新たな番組展開などを行う予定としている。

（委員）

文化会館の館長として補足説明する。音楽関係について、マロプロジェクトを今年度も実施予定。そのほか、学校鑑賞事業として、昨年度、平田オリザ氏の劇団を招聘したが、今年度も招聘する予定。昨年度は、未就学児や小学校低学年向けの劇であったが、今回は小学校3～4年生向けの劇を行っていただく。小学校に公募を行っているが、まだ2校しか申込みがなく、その2校も昨年度と同じ学校。一度観ていただくと良さが分かると思うので、新規校の参加の促進を考える必要がある。

また、星座板やマイクロビットを使ったプログラム作成など有明高専との体験型の事業連携も予定している。

そのほか、プレ40周年事業として、市民公募によりペット自慢の写真展を開催予定。今年度のプラネタリウムは、子供向けにアンパンマン、大人向けに毎月一回のヒーリング番組を予定している。

（委員）

他の委員からも意見があったように、このようなイベントがあるということを知らない人が多いので、情報をもっと伝えていかないといけない。

（委員）

基本目標2(2)の文化芸術が生み出すまちの魅力アップ事業のファッションショーに高校生との連携の記載があるが、これはどこかの高校にもう依頼をしているのか。

（事務局）

高校生については、服飾の授業がある学校に依頼を行う予定。すでに、協議は始めている。

（委員）

市だけではなく、地域からも学校に対してボランティア依頼がくるが、子どもの数も減っているし、学業との両立を考えると対応が追いつかず断る場合もある。いつも市に対して言っているのは、早めにお話をいただきたいということ。

また、ボランティアの内容が不明確なまま生徒が参加することで、返って当日の混雑や進行が上手く進まず迷惑をかけることもあっているようだ。生徒の中には、進学の内申をよくするために参加するような者もいるが、せっかく参加するなら学びに繋がってほしいので、参加前に研修やレクチャーを行っていただきたい。

（事務局）

市からは、色々な部署から高校生にボランティアに来てほしいとお声がけすることが多いが、学校の立場に立った依頼ができていないのが現状。今後は、目的や事前の計画などをきちんと説明した上でお願いしていきたい。貴重なご意見をいただき大変ありがたい。

また、ボランティアに来ていただくことで、大牟田市がどんな取り組みをやっているのか知ることができるとともに、まちづくりを体験することができるので、どんな理由でも参加してくれるだけでありがたい。そこから何かに繋がっていく可能性もある。

（事務局）

ボランティアの事前レクチャーや研修を実施し、成果を挙げた事例がいくつかある。

昨年度の押し花ワークショップでは、高校生が押し花団体から事前レクチャーを受けた上で参加したことで、自らも体験しつつ小学生にも教えることができた。

また、令和5年度に実施したダンスイベントは高校生が小学生にダンスを教え、一緒に発表する機会を設けた。学校からは、貴重な体験で、生徒達も達成感があったとの声をいただいた。

他にも、はたちの集いで配布するパンフレット関係は、高校美術部に協力いただきデザインした。

（委員）

中学生になってくると、文化芸術に触れる機会が少なくなり、興味関心がバーチャルやTikTokなどになってしまう傾向がある。ネットで簡単に繋がれる部分で感性が磨かれているのが現状であるが、そうではなく、質の高い文化芸術に直接触れ感性を育てていく必要がある。子ども達の興味関心が他のところにあるので、自らイベントに参加する事は難しいので、こういった様々な事業を通して参加してもらえよう中学校含めて教育現場が協力していきたい。

3 その他

（事務局）

昨年度の審議会では委員の皆様から出されたご意見の検討状況について報告する。

- ①「大牟田市には、大牟田奏友会という楽団や高校にも優秀なブラスバンド部がある。こういった団体が、まちの色々な所で演奏する機会が増える取組みがあるとよいのでは」

→昨年度、身近な空間を活用した学びと文化の発表事業において、三池高校の邦楽部に大牟田市議会の議場にて、演奏会を行ってもらった。今後も、市民団体や学校の文化部が発表できる機会を数多く作っていききたい。

- ②「障害のある方の文化芸術活動の推進の取組みとして、大牟田美術館展等で障害のある人の作品コーナーなどを設けるとよいのでは」

→既存のイベントに合わせて展示を行っていくことで、それぞれの取り組みの相乗効果が期待できることから、大牟田美術展の主管団体である大牟田美術協会をはじめ、関係機関にも相談しながら、積極的に取り組んでいきたいと考えている。また、今年度より、イオンモール大牟田の空き店舗を文化芸術活動の発表の場として活用させてもらっており、このような場を活用しながら障害のある人等の文化芸術活動の推進も行っていきたい。

- ③「文化芸術振興の取組みは、市だけではなく、地域や企業などそれぞれ役割があり、それぞれの主体がどのような取組みをやっているのか、プランに沿って貢献してきたのかなどを把握してもらいたい」

→把握できる情報は可能な限り資料に反映しているが、今後は、この審議会の場で、委員の皆様から年間の取組み等を口頭でも構わないので紹介いただき、共有していきたいと考えている。次回の審議会からお願いしたい。

(委員)

- ③については、次回の審議会の案内の際に、その旨記載してもらいたい。